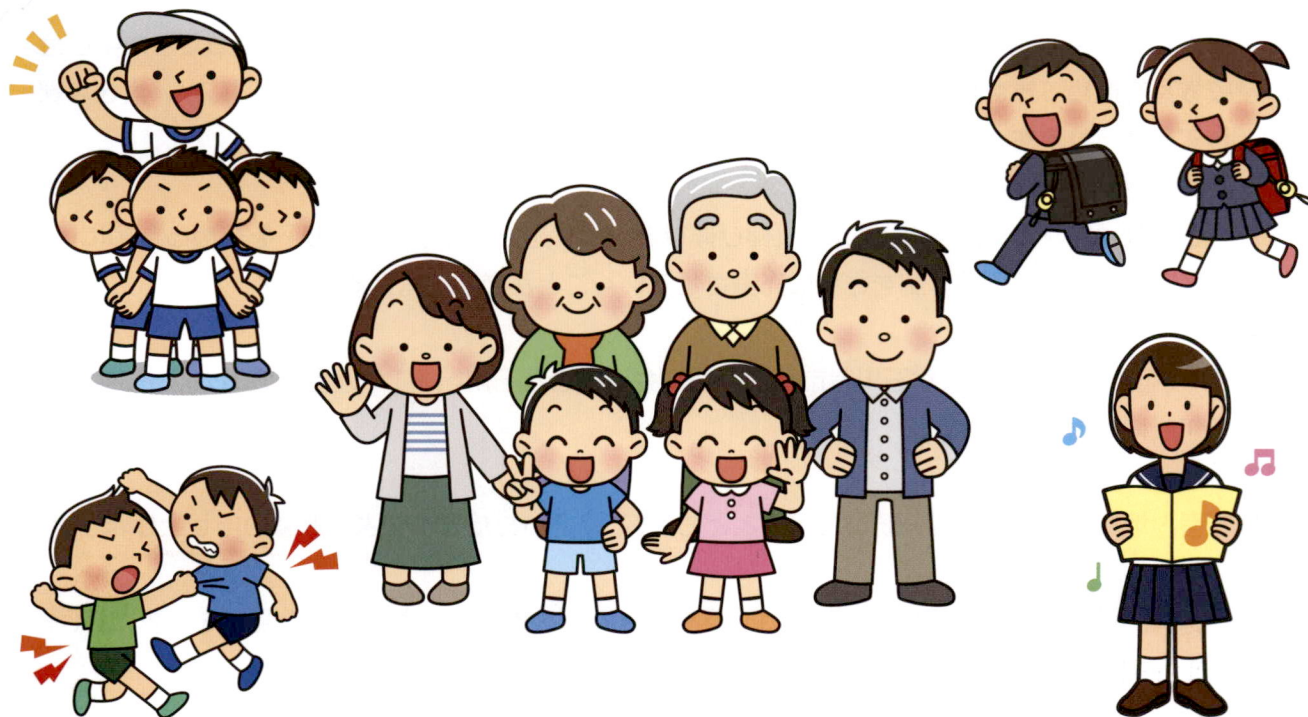


石川県 不登校やいじめの未然防止と早期発見・早期対応

「伸び伸びと明るく過ごせる学校づくり」 を進めましょう



- 子どもたちにとって学校はいろいろなことが起こる小さな社会です。
- 子どもたちは、先生や家族の指導・励まし、友達の協力・励ましなどを受け成長していきます。
- 大人（教職員と保護者、地域の方）が協力して、「不登校」や「いじめ」の未然防止と早期発見・早期対応にあたり、子どもたちが『伸び伸びと明るく過ごせる学校づくり』をさらに進めていきたいと考えています。

令和7年3月

石川県教育委員会
石川県市町教育委員会連合会
石川県PTA連合会

作成にあたって

学校は子どもたちの知・徳・体を最大限に伸ばしていく場であり、そのためには学校と保護者が子どもの様子について共通理解し、協力して育てていくことが大切だと考えています。

具体的には、子どものよいところを褒めたり、直したらよいところを注意したりなど、学校と保護者が一緒になって子どもたちに関わっていくということです。

本県の公立小中学校では、このような保護者との協力体制を大切にしながら、子どもたちが学び合う学校教育を進めてきましたが、全国と同様に増加傾向にある不登校やいじめへの対応が、大きな課題としてあげられます。

これらの課題解決にあたるとともに、『伸び伸びと明るく過ごせる学校づくり』を進めるためには、学校と保護者・地域の協力体制をさらに充実させていくことが必要と考えています。

そこで、石川県教育委員会が石川県市町教育委員会連合会と石川県 PTA 連合会の協力を得て、この冊子の作成にあたりました。

保護者・地域の皆様にはご一読いただくとともに、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、本県公立小中学校教職員の皆様にも、学校と保護者・地域の協力体制の重要性を再認識し、子どもたちの指導にあたっていただくようお願いします。

石川県教育委員会
教育長 北野 喜樹

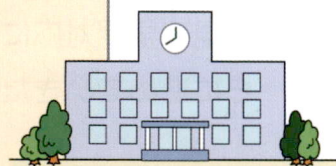
目 次

1. 学校と保護者・地域の協力	・・・	P 1
-----------------	-----	-----

2. 役割や協力のポイント

(1) 学校の主な役割	・・・	P 2
(2) 保護者の主な役割	・・・	P 3
(3) 学校と保護者が協力	・・・	P 4
(4) 学校と保護者・地域が協力	・・・	P 5

石川県教育委員会発行 参考資料	・・・	P 6
-----------------	-----	-----



1. 学校と保護者・地域の協力

○保護者の皆さんにも教職員の皆さんにも小中学生の頃がありました。思い出してみてください。

- ・友達と仲良く遊んだこともあれば、時にはトラブルが起こったこともあったのではないのでしょうか。
- ・頑張ったことを先生や家族に褒められたこともあれば、時には友達に迷惑をかけてしまい叱られたり、謝ったりすることの大切さを感じたこともあったのではないのでしょうか。

○子どもたちにとって学校はいろいろなことが起こる小さな社会です。

- ・子どもたちはいろいろなことを経験する中で、自分や友達のことを大切に、どのように乗り越えていけばよいのかを学び、成長します。
- ・その学びや成長には、先生や家族の指導・励まし、友達の協力・励ましなどがあつたのではないのでしょうか。

○今、子どもたちの「不登校」や「いじめ」への対応が、大きな問題となっています。

- ・石川県も含め、全国的に不登校児童生徒数が増加しています。
- ・同じように、いじめの認知件数も増加しています。

※いじめ認知件数の増加は、積極的な発見・解決にあたっているからです。

○学校と保護者・地域がそれぞれの役割に努め、協力して「不登校」や「いじめ」の未然防止と早期発見・早期対応にあたり、子どもたちが『伸び伸びと明るく過ごせる学校づくり』（知・徳・体を最大限に伸ばす）を進めていきましょう。

(1) 学校の主な役割

- ア：「できた」「わかった」と達成感のある学習指導や活動等
- イ：「子どもとの信頼関係」づくり
- ウ：「自分もがんばろう」と友達を手本にする生徒指導・学級経営



(2) 保護者の主な役割

- ア：家庭は子どもの安全基地です「安心感」をつくりましょう。
- イ：「早寝・早起き・朝ごはん」生活リズムを大切にしましょう。
- ウ：子どもの様子に気を配り関わっていきましょう。
- エ：「あれっ?！」と思うことがあったら、早めに! 気軽に! 学校に相談しましょう!



(3) 学校と保護者が協力

- ア：「学校に行きたくない（不登校傾向など）」に素早く対応する
- イ：「いやな思いをした（いじめなど）」に素早く対応する

(4) 学校と保護者・地域が協力

- ア：学校と保護者を含む地域の大人で「子どもを育てる」意識をもつ
- イ：学校教育に加えて、PTA活動や地域行事、社会教育、家庭教育の場で子どもたちを育てていく

本県公立小中学校の「不登校児童生徒数・割合」

小学校	R1	R2	R3	R4	R5	中学校	R1	R2	R3	R4	R5
不登校数	534	601	794	1020	1,191	不登校数	1,186	1,355	1,595	1,877	2,080
在籍数	58,109	57,028	56,037	55,353	54,603	在籍数	29,367	29,489	29,584	29,042	28,063
本県%	0.92	1.05	1.42	1.84	2.18	本県%	4.04	4.59	5.39	6.46	7.41
全国%	0.83	1.00	1.30	1.70	2.14	全国%	3.94	4.09	5.00	5.98	6.71

本県公立小中学校の「いじめ認知件数」

小学校	R1	R2	R3	R4	R5	中学校	R1	R2	R3	R4	R5
認知件数	1,631	1,675	2,129	2,199	3,147	認知件数	483	483	705	708	745
在籍数	58,109	57,028	56,037	55,353	54,603	在籍数	29,367	29,489	29,584	29,042	28,063
本県千人あたり	28.1	29.4	38.0	39.7	57.6	本県千人あたり	16.4	16.4	23.8	24.4	26.5
全国千人あたり	75.8	66.5	79.9	89.1	96.5	全国千人あたり	32.8	24.9	30.0	34.3	38.1

2. 役割や協力のポイント

(1) 学校の主な役割

ア：「できた」「わかった」と達成感のある学習指導や活動等

○主体的・対話的で深い学びの実現

- ・子どもたちの力は均一ではありません。「考えることが得意な子ども、苦手な子ども」「表現することが得意な子ども、苦手な子ども」など多様な姿があります。
- ・学習場面で言えば、学習が得意な子どもも苦手な子どもも、自分の考えを説明したり友達に質問したりして、クラスのみんなで考えて正しい答え(ねらい)に迫っていく学び合う学習が大切です。
- ・学び合う学習を進めていくことにより、クラスの子どもたちに「できた」「わかった」という達成感を生み出すことができます。
- ・子どもたちが、自分の考えが正しいのか間違いなのかを気にせず自分の考えを発表できる、間違いでも受け止めてくれるという安心感のある集団づくりが必要です。

学び合う学習の展開例

1. 課題や学習内容の確認

≪ 課題 (スタート) ≫

2. 個人で考えを持つ

○正解 × 間違い
△不十分 ? わからない

3. ペア・グループ・全体で交流する 説明したり質問したりする



なるほどわかった (× ? → ○)
ここが足りなかった (△ → ○)
理解が深まった (○ → ◎)

4. まとめる・ふりかえる

まとめ (ゴール)
子どものことばで、
正しい見方・考え方のまとめ

○ICTの活用

- ・課題を明らかにする

○個別最適な学び・ICTの活用

- ・何を使ってどのように考えるか
- ・情報 (考え) を整理する

○協働的な学び・ICTの活用

- ・シートやデジタル付箋を用いて考えを共同編集
- ・考えを共有し比較する
- ・クラスみんなで考えてみんなで理解 (わかった・できた) する



○ICTの活用

- ・端末にまとめを入力する又は自分の手でノートにまとめを書く
- ・学年によって配慮する

- ・個別最適な学びは従来の「個に応じた指導」、協働的な学びは従来の「学び合う学習」ととらえることができます。
- ・この両者を一体的に充実させるためにICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要です。

イ：「子どもとの信頼関係」づくり

○子ども理解に努め関わっていく

- ・日頃のきめ細かい観察や面接など適切な方法で子ども理解に努めることが大切です。
- ・子どもの表情を観る、「終わります」「さようなら」など挨拶後の子どもの流れを観る(ひとりぼっちの子はいないか)、子どもとおしゃべりする、子どもの休み時間の様子を観るなどが観察の方法として考えられます。
- ・このような子ども理解をもとに子どもたちに関わっていき、生徒指導・学級経営を進めることが大切です。(次のウ)
- ・また「あれ? 元気がない、おかしい」と子どもに違和感を感じた時は、子どもに声をかけて何かあったのか確認することが、不登校やいじめの未然防止と早期発見・早期対応につながります。(必要なら保護者に連絡する)
- ・子どもへの教育的愛情が子どもとの信頼関係を築いていきます。

ウ：「自分もがんばろう」と友達を手本にする生徒指導・学級経営

○学級を存在感が実感できる場としてつくりあげる

- ・子どもたちが発揮したよさや発揮しているよさ（努力）を見逃さずに褒めることが大切です。
- ・勉強や運動で力を発揮した子どもはもちろん、心あればできることを頑張っている子ども（思いやり、責任感、協力など）も見逃さずに褒める。（保護者とともにあたる）
- ・また、子どもの直したらよいことは見逃さずに注意し、「少しずつ直していこう」という気持ちを持たせる。（保護者と協力する）
- ・「〇〇を頑張っていた友達がいたよ、誰だと思う？」など、子どもたちに友達のよさを気づかせていくことで、認める姿勢をつけていく。

○学級にあたたかい共感的な人間関係をつくりあげる

- ・目標やめあてに向かって子どもとともに努力する、子どもたちの中に溶け込んでいき子どもと一緒に笑い楽しむなどが大切です。
- ・「〇〇さんが困っているよ」「協力したらすぐに終わるよ」「先生も一緒に頑張るよ」など、子どもたちにあたたかく共感的な関わりを促していく。
- ・友達の心や体をわざと傷つけるような言動は、「人としてだめなこと」「友達を思っている行動か？」など、毅然と指導する。

○自己決定の場を持ち成功体験を積ませる

- ・決定の場では、自分にもみんなにとっても良い方向に判断し、行動していくことが大切です。
- ・「やってみる！」子どもの挑戦を支え成功に導く支援が大切です。
- ・友達が何かに挑戦し成功する姿は、「自分も〇〇さんのように頑張ろう」と友達を手本にする気持ちを生み出します。

○集団の高まり（子どもたちの姿）

- ・集団が高まると、友達のよさを見つけようと努める、友達のよさを手本にして頑張る、互いに協力し合う、子どもたちが自力で問題を解決するなどの姿があります。
- ・生徒指導のゴールは「自己実現を図っていく自己指導能力（自ら判断し行動する）」、学級経営のゴールは「友達を大切にする、手本にする」と考えられます。
- ・集団の高まりは、あらゆる教育活動の土台となります。

(2)保護者の主な役割

家庭は、全ての教育の出発点と言えます。子どもたちにとって家庭は、安らぎのある楽しい居場所です。そして、社会へ巣立っていくために欠かせない場所です。

ア：家庭は子どもの安全基地です「安心感」をつくりましょう。

○保護者の子どもを愛する気持ちが、子どもの心の安心になります。

- ・家族が「笑顔でゆったり過ごす時間」や「一緒に楽しむ時間」、「家族で一緒に頑張る時間」を持ちましょう。
- ・子どもが元気に自分の意思で行動している時は、見守りましょう。
- ・「あれ？」おかしいなと感じた時は、声をかけて何かあったのか確認しましょう。
- ・子どもが不安を感じている時は、子どもに寄り添い、どうすればよかったのか、これからどうすればよいのかを一緒に考えてあげましょう。そして必要なら学校に連絡しましょう。



イ：「早寝・早起き・朝ごはん」生活リズムを大切にしましょう。

○子どもには「ぐっすり眠ること」「きちんと食べること」「じゅうぶんに体を動かすこと」が大切です。

- ・「おはよう」「ただいま」「おやすみ」を家族の習慣にしましょう。
- ・毎日同じ時間に、同じ流れでふとんに入れるようにしましょう。
- ・栄養バランスのとれた朝ごはんを準備しましょう。朝ごはんを食べると、体と脳がめざます。

ウ：子どもの様子に気を配り関わっていきましょう。

- ・子どもが発揮したよさや発揮しているよさ（努力）を見逃さずに褒めましょう。（思いやり、責任感、協力など）
- ・子どもの直したらよいことは見逃さずに注意し、「少しずつ直していこう」という気持ちを持たせましょう。
- ・制服や履き物に汚れやほつれがないか気を配り整えましょう。
- ・子どもが身だしなみを整え、忘れ物なく登校できるように気を配り、必要であれば声をかけたり整えたりしましょう。

エ：「あれっ?!」と思うことがあったら、早めに!気軽に!学校に相談しましょう!

○子どもに次のようなサインが見られたら声をかけましょう。

- ☐朝の起床時間が少しずつ遅くなるとき
- ☐成績が急激に落ちるとき
- ☐朝になると、体調不良を訴えるとき
- ☐友達の話をしなくなるとき
- ・学校にも相談しましょう。

担任の
先生

部活動の
先生※

生徒指導の
先生

保健室の
先生

スクール
カウンセラー

など



※部活動は地域クラブ等へ展開（移行）していきます

- ・学校生活の中でも、子どもに変化が現れている場合があります。
- ・保護者と学校で協力して解決にあたります。（次の（3）へ）



(3)学校と保護者が協力

ア：「学校に行きたくない（不登校傾向など）」に素早く対応する

○子どもの不安（先生の事・友達の事・学習の事・家庭の事など）を解消する

- ・「あれ?元気がない、おかしい」と子どもに違和感を感じた時は、子どもに声をかけて何かあったのか確認することが、不登校の未然防止と早期発見・早期対応につながります。（学校と保護者が情報を共有する）
- ・不登校傾向の原因は複数のことがからんでいることが多くあります。子どもが発する言葉に耳を傾け、その気持ちを共感的に受けとめ理解するよう心がけましょう。
- ・子どもが迷わないように、保護者と学校が同じ方向で協力して不安の解消にあたります。

イ：「いやな思いをした（いじめなど）」に素早く対応する

○友達とのこじれた人間関係をほどいていく

- ・「あれ?元気がない、おかしい」と子どもに違和感を感じた時は、子どもに声をかけて何かあったのか確認することが、いじめの未然防止と早期発見・早期対応につながります。（学校と保護者が情報を共有する）
- ・大人からみれば些細なことも、子どもにとっては大きなことです。子どもに寄り添い、どのようないやな思いをしたのか聞きましょう。
- ・友達とのこじれた人間関係をほどいていくために、関係する保護者と学校が協力して、思いやり（ごめんなさい）や寛容（許してあげる）、同じ事を繰り返さないことを指導していきましょう。

学校と保護者の協力の視点

友達と上手
くいかない

何にも自信
が持てない

なぜ私の家
では…

先生は見て
くれない

みんなは私
のことを…

問題行動の原因は子どもたちの心が満たされていないこと

学校・保護者

「あれ?元気がない、おかしい」と子どもに違和感を感じた時は、子どもに声をかけて何かあったのか確認する

- ・子どもの不安や悩み（心が満たされていない）の主な原因として、先生・友達・家庭の三つがあげられます。
- ※他に学業や部活動、身体に関する不安や悩みもあげられます。

信頼できる先生

仲のよい友達

安らぎある家庭

- ・この三つが子どもに満たされていれば、元気に健やかに成長していけます。

子どもに寄り添い、子どもの不安や悩みを受けとめ、学校と保護者が「信頼できる先生」「仲のよい友達」「安らぎある家庭」の視点で協力し解決にあたります。

(4)学校と保護者・地域が協力

ア：学校と保護者を含む地域の大人で「子どもを育てる」意識をもつ

○大人が子どもたちに与える影響は大きいことを共有する

- ・「子どもたちは大人の言動や社会の様子から、自然に学び感じとっている」「子どもは大人の鏡」という気持ちを共有する。
- ・学校と保護者・地域の三者で「豊かな人間性と社会で活躍していく能力（人間力）」を子どもたちに育んでいくことを共有する。

イ：学校教育に加えて、PTA活動や地域行事、社会教育、家庭教育の場で子どもたちを育んでいく

○「大切なことを心に感じ取る経験」をさせる

- ・「人のあたたかさに触れる経験」を大切にする。感謝、寛容、思いやり、長幼の序（子どもは大人を敬い、大人は子どもを慈しむ）など
- ・「人や自然に感動する経験」を大切にする。人間の強さ、存在感、仲間意識、自然の美しさや雄大さなど
- ・「社会性を学ぶ経験」を大切にする。あいさつ、礼儀、時と場をわかまえる、協力など

PTA活動や地域行事、社会教育、家庭教育の充実

**学ぶ意欲の低下 集団学習の不成立 児童虐待 子が親に暴言・暴力 友達をつくれぬ 我慢ができない
いじめ 不登校 暴力 少年犯罪 子どもの自殺（1994年頃から問題となっている）**

- ・いじめ、不登校など、教育や社会の課題として多くのことがあげられます。
- ・子どもたちは大人の言動や社会の様子から、自然に学び感じとっています。
- ・米国の家庭教育学者ドロシー・ロー・ノルト博士の詩「子は親の鏡」をご紹介します。
- ・大人が大切にしたらよいことをわかりやすく表現しているのではないのでしょうか。

『子は親の鏡』ドロシー・ロー・ノルト／レイチャル・ハリス：著 石井千春：訳

出典：「子どもが育つ魔法の言葉」（PHP研究所）

※本文は出版社の許諾を得て掲載していますので、複製および、他への転載または送信を禁止します。

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育つと、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育つと、子どもは、みじめな気持ちになる 子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



- ・大人が協力すれば、子どもたちが元気に健やかに成長する環境をつくれます。

子どもたちに「大切なことを心に感じ取る経験」を積み重ねていきましょう。

学校と保護者・地域が協力して、学校教育はもちろんのこと、PTA活動や地域行事、社会教育、家庭教育の場で進めていきましょう。

石川県教育委員会発行 参考資料の紹介



※QRコードでアクセスすると、石川県教育委員会ホームページにつながり、参考資料をご覧になれます。

保護者・地域の皆様への参考資料

1. 肝心かなめの1年生～子育ては脳育て～
2. 思春期のここが肝心！～思春期の理解と関わり方～
3. お子さんの安全基地になっていますか～やる気・自律心・コミュニケーション力を育み楽しい学校生活を～
4. 不登校児童生徒の保護者のための支援ガイド～まずは相談してみませんか～
5. 親子のホッとネット大作戦 Next

教職員の皆様への参考資料

1. 「令和の日本型学校教育」の実現に向けて～県の学力向上の重点を踏まえた授業づくりのポイント～
2. 学習指導と生徒指導を一体化させた授業づくり～生徒指導の実践上の4つの視点を踏まえた教師の意図的な関わり～
3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげる！CTの効果的な活用
4. 不登校児童生徒の現状 支援の方向性～社会的自立を目指して～
5. 確認しよう！いじめの認知と組織的対応～いじめを見逃さない学校づくり～

【編集協力】

東京大学大学院教育学研究科 教授 遠藤利彦
金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授 原田克巳

『伸び伸びと明るく過ごせる学校づくり』を進めましょう

令和7年3月発行
石川県教育委員会